

オークランド日本語補習学校通信

ふなで



2025年9月1日発行 令和7年度 第5号

【email】 ajssnz@gmail.com 【web】 <http://www.ajss.ac.nz>

心の豊かさ

校長 加納 直樹

4月にオークランドに来て5ヶ月が経ち、9月になりました。私は毎年この時期になると思い出す人物がいます。それは、「マザー・テレサ」です。今から28年前、1997年9月5日にマザー・テレサは87歳で生涯の幕を下ろしました。当時、インド・ボンベイ(現ムンバイ)の日本人学校に勤務していた私も大きな衝撃を受けました。

マザー・テレサはインド人ではありません。1910(明治44)年にユーゴスラビアのスコピエ(現在はマケドニアの首都)で生まれ、十代で故郷を離れ、貧しい人たちに奉仕するという志をもちインドにやってきました。マザー・テレサが亡くなったとき、インド政府はマザーの葬儀を「国葬」とし、テレビの国営放送もマザー・テレサの葬儀の様子をずっと中継していました。その葬儀には様々な国の人が訪れ、その数は100万人にもものぼったと言われています。インドで「国葬」にされたのは、大統領と首相を除けば初めてのことで、また各宗教の代表者も葬儀に参列するなど、宗教の枠を超えて尊敬されていました。

当時、ボンベイ市内にある広告用の看板が、マザー・テレサを象徴する「白地に青い3本の線」が入ったデザインに塗り直されました。1枚や2枚ではありません。何十枚も何百枚もある看板が、ペンキ職人たちの手によって、一夜にしてマザー・テレサ色になったのです。いかにマザー・テレサがインドの人々に愛されていたか…本当に驚きました。

「私があなたを愛したように、あなた方もお互いに愛を与えなさい。」というマザー・テレサの有名な言葉があります。自らの信念に基づき、生涯をかけて貧しい人や病に苦しむ人に奉仕したマザー・テレサ。今でも修道院のシスターたちは彼女の志を受け継ぎ、活気に満ちて活動を続けています。

『豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないでしょうか。誰からも必要とされず、誰からも愛されていないという心の貧しさ。物質的な貧しさに比べ、心の貧しさは深刻です。心の貧しさこそ、一切れのパンの飢えよりも、もっともっと貧しいことだと思います。日本の皆さん、豊かさの中で貧しさを忘れないでください。』

これは、今から44年前、1981(昭和56)年に来日した際、マザー・テレサが残した言葉です。変化の激しい現代社会、マザー・テレサが説いた「心の豊かさ」「思いやりの心」について改めて考えてみる必要があると思っています。

今後も「子供たちみんなが友達や先生に会いたいと登校してくるオークランド日本語補習学校」「保護者の皆様からこの学校に子供を通わせてよかったと思われるオークランド日本語補習学校」「オークランド在住の皆様から愛され地元の誇りと感じてもらえるオークランド日本語補習学校」を目指し、保護者・二水会・日本人会の皆様と力を合わせて、教職員一同、精一杯子供たちのために頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

終戦80年・広島原爆～黒田夫妻の講話～

8月8日（金）、黒田武顯（たけあき）さんと黒田尚子（なおこ）さんのご夫妻に本校へお越しいただき、Aコース小学部4年生、5年生、6年生に対してご講話をいただきました。



黒田武顯さんは、2歳半のとき自宅で朝ご飯を食べている時に被ばくしました。「台所の窓にもものすごい光が差し込んできた。ピカーッと。2歳半の記憶はそれだけ。」家中に飛び散ったガラスが体に刺さらずにすんだのは、運よく背後のふすまが倒れて体を覆ってくれたおかげだと話してくれました。

妻の尚子さんは、母親の胎内にいるときに被ばくをしました。尚子さんの弟は生後すぐに亡くなり、妹は目に障害をもって生まれてきました。母親は甲状腺に異常が見られ、尚子さん自身も赤血球が少なく血液に異常があります。武顯さんは白血球が少なく、夫妻の長男は血小板が少ない。それぞれに血液の異常が見られますが、それらが原爆症であるという認識が当時にはなく、原爆によるものだとして認定されたのは、1994年、広島に原爆が落とされてから50年たってからだと話してくれました。周りはみんな被ばく者で、何かしらの苦しみをかかえて生きているのに、それらの原因がはっきりとは分からない恐怖。「こんなことは二度とあってはならない。戦争はいやです。戦争のない世の中であってほしい。」と強い思いを語ってくれました。



また、ご友人がかいたという絵本「青い空」を読んでくれ、8月6日の朝に起きたこと、写真とともに放射能汚染についても説明がありました。

最後に、非核三原則に触れ、ニュージーランドは38年前に核フリーを宣言し、それをずっと守ってきており、どこよりも平和だと話してくれました。平和な世の中にするためには、「smile, shake

hand, hug」が大切だということ、「人を憎まないこと、人を理解すること、人と対話 communicate することを大事にしていれば、気持ちのよい社会になる。」と熱い思いを子どもたちに伝えてくれました。

この会の最後には、A6クラスの上原文さんが代表してご夫妻にお礼の言葉を述べました。また、身近な人に思いやりをもって接することが未来の平和につながっていくのだということを確認し合って、会を終えました。



黒田ご夫妻は、以前にも一度、ご講話をいただきました。今回、再びこのような貴重なお話を伺う機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。子どもたちも真剣にご夫妻のお話に耳を傾けていたのが印象的でした。（内山）

教職員紹介

皆さま、はじめまして。

S5 担任、A8 および A9 理科担当の佐藤和弘です。本年 3 月より教壇に立たせていただいております。

私は山形県米沢市の出身です。米沢は、江戸時代に「なせば成る、なさねば成らぬ何事も」という言葉で知られる上杉鷹山公を輩出した土地であり、その精神は今も米沢の誇りとして息づいています。私自身も、郷土の歴史や文化に触れながら育ったことが、現在の生き方の土台になっていると感じています。

雪国で育った私は、幼い頃から自然と向き合いながらスキーに親しんできました。30 歳を過ぎてからはカービングスキーに魅了され、テクニカルプライズを目標に集中的に取り組んでいた時期があります。雪国で培った忍耐強さに加え、新しいことに果敢に挑む精神は、私の人柄をよく表しているものだと思います。

ニュージーランドでは、家族とともに新しい生活を楽しんでいます。クリスティアーノ・ロナウドが大好きで、どこか優等生っぽい雰囲気がある長男と、誰にでも気さくに声をかけて友達になってしまう愛嬌たっぷりの次男と過ごす時間は、私にとって大きな喜びであり、日々の励みになっています。

教育については、子供たちには「自分のルーツを大切にする心」を持ってほしいと願っています。海外で生活する中でも、日本という自分の出発点を誇りに感じ、その文化や言葉を未来へとつなげていくことが大切だと思います。補習校での学びが、子供たちにとってその力になることを心から願っています。

これから、皆さまと交流を深めながら、自分自身も学びを広げていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

9 月の主な予定	
2 日（火）～20 日（土）	あいさつ運動
16 日（火）	A コース中学部統一漢字テスト④
20 日（土）	S コース S っ子集会（3 時間目） 「読み聞かせ」しんちゃん来校

22 日（月）	春休み
10 月の主な予定	
7 日（火）	授業開始
7 日（火）～	A・B コース小学部前期漢字まとめテスト （クラスにより実施日が異なる）
9 日（木）～11 日（土）	安全教室
14 日（火）～24 日（金）	A コース授業参観・学年会
28 日（火）～31 日（金）	A コース保護者面談週間